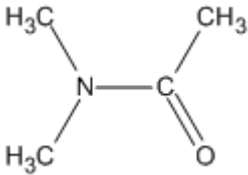


### 指针对象物質の基本情報

#### ON, N - ジメチルアセトアミド

構造式		
別名	N, N - ジメチルエタンアミド、アセチルジメチルアミン	
CAS No.	127-19-5	
物理学的性質	分子量	87.1
	比重	0.94 (20℃)
	融点	-20℃
	沸点	165℃
	蒸気圧 (20 °C)	0.33kPa
	溶解性 (水・20℃)	混和
	分配係数 (logPow)	-0.77
	引火点	63 °C
	常温での性状	無色の液体であり、刺激臭がある。 水に可溶 (混和)。
生産量	10,000 t (平成 22 年度)	
用途	反応触媒 (脱離反応)、精製溶剤、樹脂溶剤、塗料はく離剤、医薬品関係 (難溶化合物の溶剤) として使用されている。	
労働安全衛生法による規制の現状	施行令第 18 条の 2 (SDS 対象物質)	
がん原性評価	IARC : 評価なし 日本産業衛生学会 : 評価なし ACGIH : 評価なし	
国が実施したがん原性試験等の結果概要 (吸入)	<p>雄ラットでは、肝細胞腺腫、さらに肝細胞腺腫と肝細胞癌を合わせた肝腫瘍の発生増加が認められ、雄ラットに対するがん原性を示す証拠であると考えられた。</p> <p>雌ラットでは、腫瘍の発生増加は認められなかった。</p> <p>雄マウスでは、肝細胞腺腫の発生増加が認められ、雄マウスに対するがん原性を示す証拠であると考えられた。</p> <p>雌マウスでは、肝細胞癌と肝細胞腺腫、それぞれの発生増加が認められ、雌マウスに対するがん原性を示す明確な証拠であると考えられた。</p>	
変異原性の有無、強さ	N,N-ジメチルアセトアミドの変異原性については、様々な試験が実施され、その結果が陽性のものと陰性のものとがあり、変異原性の有無は判断できない。	
その他の主要な有害性	<p>眼を刺激する。</p> <p>生殖能や胎児への悪影響のおそれがある。</p> <p>眠気やめまいのおそれがある。</p> <p>長期にわたる、又は反復ばく露により、肝臓の障害、呼吸器系の障害のおそれがある。</p>	
ばく露限界	ACGIH : TWA10ppm、日本産業衛生学会 : 10ppm (36mg/m3)	
資料出所	<p>N, N - ジメチルアセトアミドのモデル SDS、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」</p> <p>「16112 の化学商品」化学工業日報社 (2012)</p> <p>「一般化学物質の製造・輸入数量 (平成 22 年度実績)」経済産業省 (2012)</p>	